平成21年6月16日（火）朝刊・夕刊 8 面（ 版）

新聞名：朝日 毎日 読売 産経 日経 京都 伊勢 中日 その他（日刊建設）

プロポなど技術競争普及を

近畿整備局らと意見交換

建コン協

建設コンサルタンツ協会（建コン協、賀谷彰彦会長）と近畿地方整備局・府県・政令市との意見交換会が12日、大阪市中央区のKKRホテル大阪で開かれた＝写真。建コン協は、国土交通省が積極的に導入しているプロポーザル方式などの技術提案を自治体にも拡大するよう求めたほか、CM業務に建設コンサルタントを活用する仕組みの検討、通りがよい個別入札対策などを要望した。

意見交換会には、発注者側から近畿地方整備局の木下敏出局長、清水谷夫副局長、堀田幸広企画部長ら同局幹部をはじめ、近畿2府5県4政令市の終始、南部隆敦政令市道路協会社会部長ら、協会側から賀谷会長、大島一哉副会長、藤本貴也副会長、松本正毅近畿支部長ら本部・支部役員が出席した。

冒頭、木下局長は「公共事業プロポーザルと総合評価方式が拡大する方向にあるが、コンサルタントは技術による競争が基本と考えている。発注者と受注者とコンサルタント側をもってお互いにいい仕事をしたい」とあいさつ。

続いて賀谷会長が「経営基盤の悪化から技術者の確保が困難になり、後継者の不足や技術の継承が困難になるなどの問題に直面している。我々もビジネスモデルを変えていかねばならない」と厳しい業界現況を訴えた。

このあと、両者は建コン協が提案した10技術力による道路関係コンサルタントの新たな役割③品質管理の確保と現場一をテーマに意見を交換。協会側は▽地方自治体における技術競争の拡大・浸透▽総合評価落札方式の適切な運用▽技術提案型総合評価落札方式などに関する提案▽CM業務に参画できる仕組み▽設計段階参画▽3者協議における発注者側・積算指導の役割▽エラー防止への発注者としての取り組み▽通りがよい個別入札対策などを要望した。

これを受け、整備局側は地方自治体への総合評価落札方式拡大について発注者側懇談会などの場を通じて呼びかけていくことを話したほか、「総合評価方式拡大で低価格入札が増加することを懸念している。前倒し発注における積算型の手続き簡素化についても関係者の絞り込みやヒアリングの簡素化に取り組んでいく」とした。

また、府県市の総合評価方式の取り組みとして奈良県と京都市が本年度から試行開始することを明らかにした。

工事施工中の3者協議については、府県市でも試行実施中が大半を占め、兵庫県は「参加要請を強要契約で発注している」と話した。

木下局長

賀谷会長

紀北西道路が起工

近畿整備局

関西大環状実現に弾み

鍬入れする関係者

近畿地方整備局が事業を進めている京奈和自動車道の「紀北西道路」の起工式が13日、和歌山県紀の川市内で行われた。

紀北西道路の着工により、京奈和自動車道は大和北道路を除くすべての路線で着工することになり、関西大環状道路の実現に弾みがつくものと期待されている。総事業費は約1200億円が見込まれている。

京奈和自動車道は、京都市から奈良県を経て和歌山市に至る全長120キロの首都圏外郭環状道路。近畿大都市圏の外郭環状道路の機能を持つ。紀北側から京奈道路、大和北道路、大和・御所道路、五條道路、橋本道路、紀北東道路、紀北西道路となっており、事業化されていないのは大和北道路の一部区間のみとなっている。

あいさつする仁坂知事と木下局長

紀北西道路は、和歌山県紀の川市打田町神領から和歌山市弘西に至る延長12・9キロで、第1種第2級の4車線（暫定時2車線）、設計速度毎時100キロで計画されている。97年度に事業化され、99年12月に都市計画決定された。

インターチェンジは、起点側から都市計画道路打田町神領の「打田IC」、岩出市根来の「岩出IC」、和歌山市湯屋谷では阪和自動車道の大阪方面、終点の和歌山市弘西では阪和自動車道の和歌山方面に接続する「和歌山IC」をそれぞれ設ける。

ルートは一般国道24号の北側をほぼ並行し、和泉山脈の山裾部を走るため、トンネルや橋梁などの構造物が中心となる。

完成すれば、紀北地域の地方都市部中心都市である橋本市から橋本道路と紀北東道路を経由し、京都、奈良方面から阪和自動車道を経由し、市西の外郭環状道路の一翼を担う役割を持った高規格幹線道路として、交通渋の円滑化、観光、地域経済に寄与するものと期待されている。

この日、午前10時30分から紀の川市内の打田中学校体育館で開かれた起工式には約150人が出席。冒頭、仁坂吉伸和歌山県知事が「和歌山の道路整備を進めていくためには、みな身をつけてもらうこと、県と国の努力、そして地元の理解と協力があれば、地域と県の夢が膨らむ」と述べ、和歌山県の道路整備推進への協力を訴えた。

地元選出の国会議員らが祝辞を述べたあと、西日本高速道路関西支社長が「必要な道路を着実に整備するには、支援と力強い声援があってこそ実現する」とあいさつ。最後に木下敏出近畿整備局長が「紀北西道路が起工をむえられたのは地元住民や地域の皆さまの多大なる努力と支援のおかげだ。しっかり期待にこたえるようにしたい」とお礼の言葉を述べた。

このあと、打田IC進路事業地内で関係者16人が鍬入れして工事の無事完成を祈願した。

簡易公募2件の参加手続き開始

近畿整備局

近畿地方整備局は16日、簡易公募型競争入札（総合評価落札方式）1件（豊岡河川国道）と、簡易公募型競争入札1件（紀南河川国道）の計2件の業務について、参加手続きを開始する＝公告別掲。